

赤い心海底

時効事件③

高木徳一



吉永小百合似の知的小顔美人と噂された赤井睦の視線の先は、無機質なコンクリの護岸堤に囲まれた中川運河の澱みであつた。

睦は島根県で生まれ、県立高校を卒業し、叔母が嫁いだ名古屋市千種区の住まいの二階を間借りして、三年間看護専門学校に通い、国家試験に一発で受かり、晴れて看護婦になつた。

澄んだ瞳が特徴的な憧れの江川ゆり先生の紹介により、中川区にある池田病院に就職した。

一年後に、両区の間にある中区のアパートを借りる。

看護専門学校の先生からは池田孝志院長は中学時代の同級生であり、文武両道の偉丈夫で名古屋大学出の出世頭であると聞かされていた。勤務中に耳にしたことは、院長は産婦人科医院を開業後、内科、小児科、外科、放射線科と増やし、棟を増築し、総合病院としたと。一部迷路のような場所があつたが、昨年改築し地下一階、地上四階のH

型のすっきりタイプにした。

東棟と西棟を廊下で結び、その南面を庭に、北面は救急車の出入り場所。

尖つた顎で金縁眼鏡を掛けた院長は髪の手が立っていることからライオン丸と渾名され、アルコールが入ると赤猿になり、男の道楽『飲み、打つ、買う』の『飲み』から脱落し、『打つ』は株で大損をし、危うく病院を手放しそうになつた。目と鼻の先の競馬場通いにも熱中したと言う。

こんな過去を先生から聞いていれば、絶対ここには勤務しなかつたと睦は先生を恨む。しかし、先生もこれらの件は知らなかつたのかも・・・。

『買う』の噂や浮いた話は聞いたこともなく、一姫二太郎を授かり、子煩悩だと言われている。精々、事務員や看護婦のお尻を触り、安産型だと言ひ、皆は職業柄の茶目つ氣だと意に介さない。子供好きな睦も撫でられたくちで、小振りの胸が弾んだことがある。

七年目の睦は小児科、内科の勤務を経験し、現在は産婦人科病棟担当である。

今朝、睦は出勤し、昨日の休暇の午後は映画『ラストサムライ』を鑑賞したことを看護婦仲間に吹聴し、内容まで得意げに喋った。

打ち合わせ時の申し送りで、睦は太り過ぎの岡本幸（さち）から新旧入院者の症状説明を受け、看護日誌を受け取った。東棟南東にある新生児室に入り、嬰兒のリストバンドと名札に九番と印字されている保育器に近付いた。

幸の説明を反芻する。今年九番目となる嬰兒は昨夜八時頃妊婦共々救急車で運び込まれ、妊婦坂口好子（二十七歳）は下腹部を切開されて出血多量で既に死亡していて、子宮から取り出されたらしい臍の緒が付いた嬰兒が泣いていた。嬰兒は体重二九三〇グラムで、膝の裏、大腿の裏、股間の三箇所へ傷が見付かったが、その他の所見に異常はなく、直ぐに処置されたと。

観察を終えた睦は窓辺から南北に走る中川運河を暫し見詰めた後、他の新生児も観察し、妊婦の見回りもした。

テレビ、ラジオ、新聞などが臨月若妻殺人事件として大々的に報道している。

三月十八日午後七時半過ぎに、会社員（三十一歳）が名古屋市中川区のマンションの自宅に帰ったところ、妻が電気コードで首を絞められ、白い紐で後ろ手に縛られていて、下腹部が切られていた。両足の間に弱々しく泣き声を上げる血まみれの嬰兒を見付け、救急車で運んだが、妻は既に絶命していて、嬰兒は奇跡的に助かったと報じている。午後に入り、嬰兒の父親坂口照夫が訪れたので、睦は見舞いを述べ、嬰兒に異常はないことを告げた。刈り上げの照夫はギョロ目でふくら頬であるが、事件の心労で目は充血し、口が歪んでいる。毎日顔を見せる照夫に、睦は挨拶をするが、どのような表情をすればいいのか、悩む。

『先ず、第一発見者を疑え』の捜査鉄則によつて照夫は何度も事情聴取を受けたが、殺害推定時刻の当日午後二時過ぎには会社におり、アリバイが成立した。直前の一時五十分頃には妻好子の知り合いの主婦が子連れで訪問し、サイドビジネス販売の脱臭剤を二千数百円で購入し、好子は三時頃には談笑後階下の駐車場まで見送っている。また、この頃被害者階下の主婦が、チャイムを鳴らされ「ナカムラさんのお宅は知りませんか？」とサラリーマン風の男に問われたと言う。

近所の人も不審な男を目撃している。

警察は聞き込み捜査に全力を傾注する。

一ヶ月の時の流れが照夫の心の澱みを幾分か洗い、睦との会話の数も増えた。

嬰兒の名前は世の中を明るく照らして欲しいとの夫婦の願いで前もって照明（てるあき）にしていたとのこと。彼の両親は大学山岳部に所属していた結ばれ、昨年のOB会で鹿島槍ヶ岳縦走中に母

親が滑落し、救助しようとした父親も転落したと言う。誘われていたが、仕事で断わってしまったことに自責の念に駆られていると涙を見せる。

妹さんは小学校三年次に心臓の中隔欠損症の手術後に亡くなつていて、一人ぼっちになつてしまつたときつと口を結んだ。両親とも一人つ子だったので、親戚はいない。

一方、義父母からは事件を鮮やかに思い出させる嬰兒は引き取らず、余生を娘の供養に捧げるとの口調に涙を飲んだ由。初めて聞く照夫の身の上話に、睦は同情を禁じ得なかった。

身寄りのない照夫のために、睦は西部児童相談所に乳児院を紹介して頂くようアドバイスした。

同じ区にある小宮乳児院に照明は転院した。

そこに、睦は三日おき位に顔を出し、笑顔を拝み、安心モードで家路に急ぐ。

何故、照明に目を掛けて下さるのですかとの照夫の質問に、睦は看護した不憫な赤ちゃんが元気に

続きは
完成版で
お楽しみ下さい。